

【第4学年の研究構想図】

【これまでの研究の成果 (○) と課題 (●)】

- 新学習指導要領における新単元の教材開発
- 選択・判断の学習活動の明確化
- 子供が学びを振り返り、次の学びに生かす評価活動
- 教材開発に多くの時間を使うことで、学習活動や評価について検討する時間が確保できない
- 「問い」のさらなる研究
- 選択・判断の学習活動のさらなる研究

【4年社会科の課題 (◆) と方向性 (◇)】

- ◆児童にとって身近な事例と扱うことを優先することで、学習対象が東京都まで広がらないことがある
- ◆児童が用意する資料は児童には難しく、活用できない
- ◇児童の主体的な学びを意識した授業デザイン (問い・学習活動) の充実
- ◇「いかす」段階における選択・判断の学習活動の充実
- ◇見通しと振り返りの充実

社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

目指す子供像

自分たちの暮らす東京都への理解を基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え、東京都のこれからを考えようとする子供の育成

研究の仮説

自分たちの暮らす東京都への確かな理解につながる教材・問い・学習活動・評価の工夫をすれば、児童が社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え、東京都のこれからを考えようとする子供が育つであろう。

研究の内容

事例や教材の開発・選定 教材の分析	主体的に 問いの解決を追究する工夫	社会的事象の見方・考え方を働かせ 学習活動の工夫	子供の学びを確実にする 評価の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○社会とのつながりを意識できる ○問題意識をもち追究意欲を高める ○東京らしさやよさを感じる ○人の働きや営みに共感できる ○見方・考え方が働きやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題意識が高まり問いが生まれる社会的事象との出会いの工夫 ○学習問題の設定と予想や学習計画の立案による見通しをもつ工夫 ○子供の思考の過程に即した問いの構成の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○視点に着目して問いについて調べる学習活動の工夫 ○比較・分類・関連付け・総合して考察する学習活動の工夫 ○これまでに養われた視点や方法を転移・応用させ社会に見られる課題の解決に向けて構想する学習活動の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○3観点による評価計画の作成 ○指導と評価の一体化を図る (教師が指導に生かす) ための評価の工夫 ○子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価活動の工夫

【研究内容①】 主体的に問いを追究する工夫

1 問題意識を高める工夫

・『資料➡(発問)➡児童の問い』の流れで、授業をデザインすることで、問いの連続性を意識して学習問題をつくりあげる。

<問いの連続性>

オリエンテーション	社会的事象との出会い①	<p>資料 東京都の文化財や年中行事 (地図)</p> <p>東京都には、たくさんの文化財や年中行事があるんだね!</p> 
	社会的事象との出会い②	<p>くらやみ祭は、1000年以上続いているんだね!</p> 
	つくる問い①	<p>1000年以上続いているくらやみ祭ってどのような祭りなんだろう?</p> 
つかむ①	本時の問い	<p>本時の問い くらやみ祭は、どのような祭りなんだろう?</p>
	つくる問い②	<p>夜の祭りなのかな?</p> 
	社会的事象との出会い③	<p>資料 くらやみ祭 夜バージョン (動画)</p> <p>やっぱり、夜やっているんだね!</p> 
	つくる問い③	<p>本当に夜だけのお祭りなのかな?</p> 
	社会的事象との出会い④	<p>資料 くらやみ祭 昼バージョン (動画)</p> <p>あ、昼もやってる!</p> 
	つくる問い④	<p>昼には、どんなことをやってるのかな?</p> 
	社会的事象との出会い⑤	<p>資料 くらやみ祭 昼バージョン (動画)</p> <p>大きなかさみたいなのをまわしてる! 太鼓だ!</p> 
	つくる問い⑤	<p>何日間やってるのかな?</p> 
	社会的事象との出会い⑥	<p>資料 くらやみ祭のスケジュール表 (表)</p> <p>7日間もやってる! ずいぶん、人がたくさんいるんだね!</p> 
	つくる問い⑥	<p>どれくらいの人 coming しているのかな??</p> 

	社会的事象との出会い⑥	<p>資料 くらやみ祭の参加人数（グラフ）</p> <p>80 万人も来ている！府中市の人口よりも多いんだ！ </p>
	まとめ	<p>くらやみ祭は、80 万人以上の人たちが参加する祭りです。万灯大会、おはやし、こまくらべなど、7 日間かけて行われる。 </p>
	次時へのつながり	<p>くらやみ祭が始まったころは、どんなことをしてたのかな？ </p>
つかむ② (本時)	本時の問い	<p>本時の問い くらやみ祭が始まったころは、どんなことをしてたのだろう？</p>
	つくる問い⑥	<p>1000 年前は、どんなことをしていたのだろう？ </p>
	社会的事象との出会い⑦	<p>資料 くらやみ祭の流れを表したテープ図 その1</p> <p>国の安全や作物が豊かに実るお祈りをしてたんだね。 </p>
	つくる問い⑦	<p>そのあとは、どんなことがあったんだろう？ </p>
	社会的事象との出会い⑧	<p>資料 くらやみ祭の流れを表したテープ図 その2</p> <p>祭が続けられなくなったり、おみこしが中止になったこともあるよ。 </p>
	つくる問い⑧	<p>そのあとは、どんなことがあったんだろう？ </p>
	社会的事象との出会い⑨	<p>資料 くらやみ祭の流れを表したテープ図 その3 音楽科のお囃子の体験学習（カリ・マネ）</p> <p>音楽の授業でやったけど、難しかったね！ </p>
	つくる問い⑨	<p>あんな難しいおはやしをずっとやっているの？ </p>
	事実と問いの整理	<ul style="list-style-type: none"> ●1000 年以上つづいている！ ●2 回の危機を乗り越えている！ ●音楽で体験した難しいお囃子をやっている！
	学習問題	<p>学習問題</p> <p>くらやみ祭は、どのように 1000 年以上続けられてきたのだろう？ </p>

学習計画	学習問題 対する予想	予想 A 2回も祭りができなくなりそうになったのに、ずっと続いているということは、何か工夫をしたのではないか。	予想 B お祭りを開催する人達が何かしているのではないか。	予想 C お囃子保存会の人など、祭りを受けついでいる人たちが、何か取組をしているのではないか。
	学習計画	第5時 祭の歴史	第6時 祭を支えている人	第7時 伝統を受けつぐ人
		2回の大変な時期を、どのように乗り越えてきたのだろう。	町内、青年会、講中などの人たちは、どのようにくらやみ祭を続けているのだろう。	お囃子保存会の人たちは、どのようにくらやみ祭を続けているのだろう。
	1 単位時間の ゴール	くらやみ祭は、豊作や国が豊になるように祈る神社の祭りから、市民が協力して行う祭りへと変わった。また、けんかでみこしが中止になったが、時間をずらしたり、大祭委員会を作ったりして、今も祭りを続けている。	青年会は、子どもみこしや子ども万灯大会の実施をしたり、講中は、府中以外の地域の人たちで祭りを準備したりするなど、青年会、町内、講中で分担して仕事を行っている。また、みんなで協力して、これからも続けていきたいという思いで、くらやみ祭を続けている。	おやはし保存会の人たちは、昔から続けている祭りを残したい、みんなで守っていききたい、技を受けついでいきたいなどの願いをもって、大変なお囃子の稽古を続けて祭りで演奏したり、教わった技を子供たちに教えたりしている。
まとめ	学習問題に 対する 自分の考え	くらやみ祭は、時代に合わせて祭りのかたちをよりよいものにしてきた。楽しい祭りにするために、町内、青年会、講中、大祭委員会とたくさんの地域の人たちが協力してくらやみ祭を支えてきた。祭りの成功や伝統が続くことを願いながら、その思いを子供たちに伝えてきた。だから、1000 年以上くらやみ祭は、受けつがれている。		

- ・祭が続いてきた長さをテープ図で比較し、くらやみ祭が 1000 年以上も続いてきたことに疑問をもてるようにする。
- ・お囃子の体験を通して伝えていくことの大変さを感じ取り、どのように祭を継承してきたのか問題意識を高めるようにする。

【大口実践より】

- ・テープ図でくらやみ祭りが長く続いたことを印象付けたことで、どのように続けられたのかという疑問につながった。
- ・お囃子の楽譜から、祭りの継承に対する関心をもたせることができた。

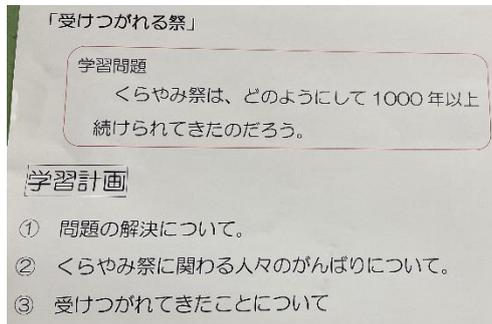
【菊池実践より】

検証のため、テープ図の活動のみ行い、お囃子体験は扱わなかった。起きた出来事を短冊にし、テープの下に貼った。「どのように変わっていたのか。」という問いにつながったが、「どのように続いていったのか。」とはならなかった。

2 見通しをもつ工夫

- ・学習問題と1単位時間の学習内容が記載された「学習計画表（ホワイトボード）」を教室に掲示し、児童がいつでも単元のどこを学習しているのか、次回どんな学習をするのかなど、学びの見通しがもてるようにした。

<学習計画表>



【大口実践より】

- ・学習の見通しをもったことで、追及意欲の持続が感じられた。

【菊池実践より】

くらやみ祭の学習への見通しが立ち、配慮を要する児童も参加しやすくなった。学習計画づくりに用いた、人々の写真も掲示することで、「大祭委員会が〇〇したと思う。」など、具体的な予想をして意欲的に調べることができた。

3 内容や方法を選択できる工夫

- ・複数の学習内容を調べる時は、児童が調べたい学習内容から調べられるように資料を用意した。

<第6時の資料>

資料その1：町内を調べる資料

<町内>

- ・およそ140年前から、神社周辺の町内がくらやみ祭に関わっている。
- ・町内ごとに、海の水を神社に持ってきたり、みこしが通る道を清めたりするなど、祭で行われるぎしきのお手伝いをしている。
- ・祭のかざりつけや片づけをしている。

※道を清めている様子

資料その2：青年会を調べる資料

<青年会>

- ・町内を支えている若い人たちのこと。
- ・みこしをかついだり、みこしがスムーズに進むように、けいびをしている。
- ・万灯(まんどう)を作ったり、子供会に、子供みこしや子供ばやしを伝えていく。



府中市番場町に住む 下村 盛章(しもむら もりあき)さんの話
一つの行事をもり上げていくのが楽しいです。地域に古くから住む人の思いが、新しく住み始めた人や他の地域の人にもうまく伝わらないことがあるので、話し合いを何度もして、祭がこれからも続き、うけつがれていくようにしています。



青年会 滝島 文一(たきしま ふみかず)さんの話
子供のころに府中囃子(ふちゅうばやし)をやり、今は青年会で活動しています。万灯大会ではこの町会にも負けない万灯をつくろうと、みんなで力を合わせています。
府中市内の子供たちが、万灯大会や子供みこし、子供ばやしを通して、祭の楽しさを味わい、くらやみ祭をうけついでいってほしいです。

資料その3：講中を調べる資料

<講中(こうじゅう)>

- ・講中は、町内の人たちと協力して祭を支えている。
- ・たいこ講中やみこし講中など、役わりによって名前が変わり、たいこやみこしを直したり運んだりしている。
- ・府中市内だけでなく、府中市以外の地域にもいる。



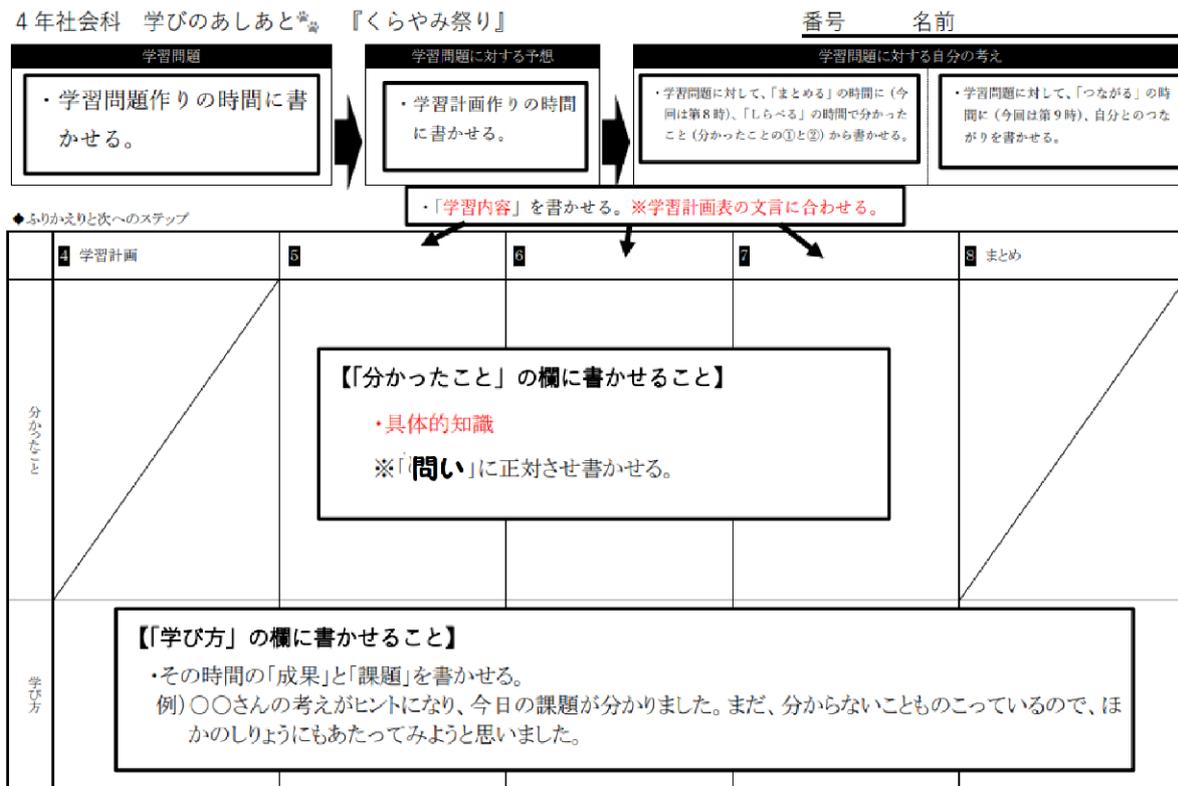
貫井(ぬくい)講中 鈴木 政雄(すずき まさお)さんの話
わたしは、東京都小金井市に住んでいます。たいこ講中として、たいこを直したり、当日たいこを出したりします。「貫井が来なきゃたいこは出せない」とみんなに言われているほど大事な仕事です。この仕事は、わたしのせんだからずっと、うけつがれてきました。わたしたちの子供たちにもうけついでいきたいです。

【大口実践より】

- ・一つの資料に一つの話題となっていることで、内容が簡素化され児童が読み取りやすさを感じていた。

4 学びを振り返る工夫

- ・「学びのあしあと」に調べ分かったことを毎時間記入し、学習を振り返る時間を設定する。
- <学びのあしあと>



5 協働的に取り組む工夫

- ・ロイロノートを活用し互いの意見を確認し合うことで、考えを広めたり深めたりすることができるようにする。

【菊池実践より】

東京都の年中行事を知る活動で、タブレットを用いた。多くの年中行事がいろいろなところにあることは捉えられたが、思考が拡散し、くらやみ祭りに目が向かない子供がでてしまった。

【研究内容②】 見方・考え方が働く学習活動の工夫

1 視点に着目して問いについて調べる学習活動の工夫

(1) 位置や空間的な広がりから見る

- ・東京都にある年中行事や文化財に注目するために、主な祭りや文化財の様子がわかる写真を載せた資料を作成し活用する。
- ・くらやみ祭が行われる府中市は国府が置かれた場所であることを知るために、地図帳で位置を確認する。

(2) 事象や人々の相互関係から見る

- ・くらやみ祭りを支える人々の協力関係に着目させるために、互いの役割をYチャートで構造的に整理させる。

(3) 時期や時間の経過から見る

- ・くらやみ祭りが1000年以上続いていることを実感させるために、テープ図を用いる。
- ・くらやみ祭りが1000年以上続く中で乗り越えてきた事柄があることを捉えるために、情報を整理した年表や関係者の話を資料として活用する。

【大口実践より】

- ・資料から色々な年中行事や文化財が東京都の様々な場所に存在するを読み取ることができた。【位置】
- ・意図的に情報を整理した年表の活用により、追及させたい出来事（ピンチ）に注目させることができた。【時間】

【菊池実践より】

- ・年表からは、「けんかがあったのに、なんで文化財に選ばれたのか。」などの問いが生まれた。【位置】
- ・関係者の話から、誇りや強い思いをもって祭を続けてきたことが捉えられた【相互関係】。

2 比較・分類・関連付け・総合して考え話し合う学習活動の工夫

- ・時代に合わせて祭りの形を変えて続けてきた経過や祭りを支えるたくさんの人々の協力、成功や伝統の継続を願う人たちを関連付けてどのように継承されてきたのか考えるために、「学びのあしあと」に毎時間の調べ分かったことを記入し、学習問題に対する自分の考えを書く際の思考ツールとして活用する。
- ・地域の一員として年中行事の継承のためにできることを考えるために、「つながる」場面でくらやみ祭の取り組みと地域の祭りの取り組みを関連付けて学習する時間を設定する。

【大口実践より】

「学びのあしあと」は1枚のワークシートになっているため、毎時間のまとめを見比べやすかった。児童は、くらやみ祭を受け継いでいきたいという人々の願いに気付くことができた。

【菊池実践より】

1枚の紙に毎時のまとめがあることで、人々の協力や、保存や継承のための取り組みを捉えられる児童が増えた。

【研究内容③】 子供の学びを確実にする評価の工夫

1 3観点による評価計画の作成

- ・学習指導要領の解説を基に、指導案の「3 小単元の評価規準」、「6小単元の指導計画の評価」、「7本時の学習の評価」を作成した。
- ・指導に生かす評価を☆、記録に残す評価を★に分類した。

2 教師が指導に生かす評価の工夫

- ・指導に生かす評価は、1 単位時間内に児童の学習状況を把握し、すぐに児童に指導することを1 番に考えた。
- ・作成した3 観点による評価規準を基に、その授業内で評価規準に到達できていない児童を明確にして、その児童に対する手立てを具体的に考えた。

評価規準	ノートの記述などから、「くらやみ祭が、1000 年以上前から受け継がれていることやその難しさに着目して問いを見出しているか。」を評価する。
評価規準に到達できてない児童	『問いを見出せない児童』
手立て	今も昔も変わらないのは、どうしてか考えさせ、それを確かめるためにどんな問いだと調べられるか、考えられるようにする。

【大口実践より】

「問いをもてない児童」には、年表やテープ図に立ち返り、祭が長く続いているなどの着目点を明確にすることで、「どうやって昔の問題を乗り越えたのだろう」といった疑問をもつことができた。

【菊池実践より】

今も昔も変わらないことが捉えられていないのか、それともそれにつながる問いが作れないのか、子供の学習状況を考えながら、支援することにつながった。

3 子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価の工夫

- ・学習の見通しと振り返りを行うために、『学びのあしあと』を活用した。『学びのあしあと』は、B4サイズ 1 枚で学習の見通し(学習計画)と振り返りを行える。振り返りは、①分かったことと、②学び方の2つを振り返るようにした。
- <学びのあしあと>

【大口実践より】

「学び方」を振り返ることで、社会科をどのようにして学ぶのか意識する児童が増えてきた。「資料から〇〇について気付くことがたくさんできた。」など

【菊池実践より】

友達と考えを共有し、広げることのよさを感じることができた。また、「キーワードを意識してまとめようと思う」など、調べ方を工夫しているようにする児童もいた。